

平成 30 年 10 月 30 日
(2018 年)

常任委員会行政視察報告書

委員会名	文教市民常任委員会
視察委員	委員長 藤木栄亮 副委員長 橋本 潤 委員 澤田雅之、五十川有香、石川 勝、野田泰弘、松谷晴彦、 坂口妙子、竹村博之
視察期間	平成 30 年 8 月 29 日（水）から 8 月 30 日（木）まで 2 日間
視察内容等	<p>1. 視察先及び調査事項</p> <p>1 日目 静岡市 清水エスパルスと連携した取組について</p> <p>2 日目 武蔵野市 公立図書館（武蔵野プレイス）の管理・運営について</p> <p>2. 調査の概要及び意見（静岡市）</p> <p>ア. 静岡市の主な事業概要</p> <p>サッカー王国・サッカーのまちと称される静岡市では、サッカーを競技スポーツとしてだけでなく、教育やコミュニティツール等として活用し、地域資源・文化であるサッカーをいかしたまちづくりを推進している。</p> <p>具体策は以下のとおり。</p> <p>（1）清水エスパルスとの連携事業</p> <p>平成 7 年にエスパルスと静岡市が、交流事業に関する申合せを締結し、様々な連携・協働事業を実施してきた。</p> <p>具体的な事業等は以下のとおり。</p> <p>①地域交流応援シート</p> <p>②エスパルスドリーム教室</p> <p>③アウェイゲームパブリックビューイング</p> <p>④小・中学生ホームゲーム招待</p> <p>⑤巡回スポーツ教室</p> <p>⑥親子ふれあい運動教室</p> <p>⑦特製ベビースタイの配布</p> <p>⑧ユニフォームへの市名掲出</p> <p>⑨ご当地原付ナンバープレート</p> <p>⑩選手・マスコットの派遣</p> <p>（2）フォッサ・サッカーのまち市民協議会</p>

平成6年に市の生活文化の向上に寄与することを目的に設立し、ホームタウンチーム及び地元サッカーチームを組織的に支援している。

具体的な事業等は以下のとおり。

- ①パルちゃんクラブ運営補助
- ②オレンジスポーツフィールド
- ③静岡市ホームタウンチーム PR 事業
- ④オレンジ化推進事業
- ⑤サッカー日本代表応援事業
- ⑥エスパルス必勝祈願

(3) 全国少年少女草サッカー大会

静岡市や日本サッカー協会、朝日新聞社等が主催となり、「全国どこからでも、どんなチームでも」「勝っても負けても最終日まで」などを理念に、昭和62年から大会を開催している。運営には地元父兄や中高生ら約5,000人がボランティアとして参加している。

イ. 主な質疑内容

担当者から説明の後、委員から次の質問があった。

- (1) 地域交流応援シートにおける自治会の申込み方法
- (2) 小・中学生ホームゲーム招待における観戦チケットの交付枚数
- (3) 特製ベビースタイの作成経緯
- (4) 選手、マスコットの派遣の報酬額
- (5) 静岡市サッカーフレンドシティ計画終了後の経過
- (6) スタジアムのネーミングライツ料の活用内容
- (7) まちづくりの中心にサッカーを据えた経緯
- (8) 清水エスパルスに対するホームタウン市以外の動向

ウ. 委員会としての所感

- (1) 清水エスパルスはオリジナル10の中で、唯一の市民チームであり、行政との連携、協働を積極的に実施している
- (2) 自治会単位で参加するホームゲーム観戦バスツアーは、サッカーのまちである静岡市らしい取組であるが、吹田市でも検討できないかと感じた。
- (3) ガンバ大阪はホームタウンが多くあるため、静岡市とエスパルスのような連携を、吹田市に全て当てはめることはできない。
- (4) 原付ナンバープレートは吹田市でも実現させたい取組である。
- (5) 特製ベビースタイの配布は、若い世代への啓発としては見習いたい取組である。
- (6) 吹田市とガンバ大阪とでも様々な連携、協働を実施しているが、今回の清水エスパルスの多くの事例を大いに参考にし、今後もガンバ大阪との連携を深めていくよう、行政とガンバ大阪に提言していく。

エ. 各委員の所感

- (1) 静岡市は、旧清水市のときに、市民の力で清水エスパルスが誕生したという背景やサッカーと市民との関わりに違いはあるが、チームマスコットのパルちゃんのロゴ使用の仕方や地域のコミュニティづくりにつながっている取組等は参考になった。
また、市議会のある建物は昭和9年から有形文化財にも登録されており、由緒ある建物という文化を守りつつ、折りたたみヘルメットが常駐されているところには、防災の視点を感じた。
- (2) エスパルスとの連携事業である「地域交流応援シート」は、自治会単位で参加するホームゲーム観戦バスツアーを企画することにより、地元からの熱い盛り上がり期待できる。ガンバ大阪においても、ファン層は広くという意味は理解できるが、もう少し地に足をつけた地元応援があればと感じた。
- (3) 前提として、エスパルスが「静岡市のシンボル、心の公共財」として位置づけられている。連携事業の中では、地域交流応援シートや特製ベビースタイの配布、原付ナンバープレートなどがユニークな取組だと感じた。サッカーをいかしたまちづくりには、全国少年少女草サッカー大会が一つのベースになっていることが理解できた。説明員の方のエスパルスに対する愛情は人一倍であり、また丁寧な説明で大変参考になった。

3. 調査の概要及び意見（武蔵野市）

ア. 武蔵野市の主な事業概要

武蔵野プレイスは、図書館を始め、生涯学習支援、市民活動支援、青少年活動支援の四つの機能を備えた複合施設である。それらの機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人と人とが出会い、それぞれが持っている情報を共有、交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、まちの活性化が図れるような活動支援型の施設を目指している。

イ. 主な質疑内容

担当者から説明の後、委員から次の質問があった。

- (1) 業務委託の実態
- (2) 大学図書館等との連携状況
- (3) 学校との不登校の児童、生徒の来館情報の共有の有無
- (4) 高齢者への配慮策
- (5) 建設に係る総工費

ウ. 委員会としての所感

- (1) 武蔵野プレイスは四つの機能を有している複合施設で、駅前に立

地しており、吹田市の夢つながり未来館に類似している。

- (2) 館全体にオープン的な空間が目立っており、開放感にあふれ、落ち着いた雰囲気、各種の活動に集中できる施設となっている。
- (3) 指定管理で運営されており、自主事業としてカフェが一階にあり、人気で稼働率もよいとのことであるため、吹田市でも実現したい取組である。
- (4) 市民活動支援機能は吹田市のラコルタと類似している。活動している市民団体への支援は参考になった。
- (5) 青少年活動支援機能はプライバシーに配慮しており、吹田市でも参考にすべきところがあった。
- (6) 図書館機能は新着・返却資料棚に工夫が凝らされており、参考になった。
- (7) 生涯学習支援機能では、大人向け、子供向けのどちらとも講座や教室などが充実している。

エ. 各委員の所感

- (1) 武蔵野プレイスは、駅前の立地の良いところにあり、図書館機能、生涯学習機能、市民活動支援機能、青少年活動支援機能の複合施設として、多世代の方が利用する仕組みとなっている。見学時、子供たちの楽しそうな姿が印象的であった。
この四つの事業は、どの自治体においても必ず行っている事業であるが、武蔵野市で実現できている強みを本市でできないのか、その要因を分析し、目指すまちをデザインする力を市民と議会、行政でつくり出していくことが必要であると改めて感じた。
- (2) 複合施設一体型運営の成功モデルとして受け止めた。今後、本市においても複合型施設が増えると想定される中、この度の視察は有意義であったと思う。また、議員間で同様の情報を得ることで議論の幅が広がったことも良かった。早速、9月議会での北千里駅前の複合施設計画の委員会の協議の場でも視察情報がいかされた。今後も当該施設の運営手法に注目していきたい。
- (3) 武蔵野市立「ひと・まち・情報創造館 武蔵野プレイス」は四つの機能の連携と融合がされている。(図書館機能、生涯学習支援機能、青少年活動支援機能、市民活動支援機能) 特にB2Fの青少年のフリースペースの無料施設のスタジオラウンジにおいては、多くの若者が集い、様々な利用をしている過ごし方には、関心を持った。3FのワークラウンジにはNPO等が気軽に立ち寄り、

作業が行えるフロアは画期的であった。

- (4) 7年前に建設され、市が100%出資している公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団が指定管理をしている複合施設で、ハード、ソフトの両面でとても参考になった。四つの事業はいずれも特徴があったが、とりわけ青少年活動支援事業の居場所づくり事業はユニークで、青少年に寄り添っていると感じた。